

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471903052
法人名	有限会社 Cocci
事業所名	グループホーム ちゃばしら
訪問調査日	平成20年3月17日
評価確定日	平成20年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1471903052
法人名	有限会社 Cocci
事業所名	グループホーム ちゃばしら
所在地	238-0043 横須賀市坂本町5-5-18 (電話) 046-823-0075

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成20年3月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	11 人	常勤 2人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.7人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	67,500 円	その他の経費(月額)	44,400 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(800,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月11日現在)

利用者人数	6名	男性	名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 81.5歳	最低	73歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 大畑医院、医療法人社団 湘南グリーンクリニック、櫻井整形外科
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年3月に開所した1ユニット、2階建てのグループホームで、経営は有限会社 Cocci で、汐入駅からバスで10分程度のところにある。丘の上の方に位置する為、自然が残る、林や公園もあり、散歩にも適した環境である。ホームはオーナー(ホーム長)個人の経営であり、この場所は親族が花屋の倉庫として使っていた建物とのことで、地元で親近感がある。建物、周囲の土地の関係で居室は7つしか取れず、グループホームとしては小型なものであるが、この人数による共同生活は大家族と云える1体感があり、介護も行き届き好ましく思えた。ケアに厚さがあることが印象的である。ここは1ユニット7人であり、ホーム長、ケアマネジャーがフリーで交代でどちらか居る体制なのでプラス1名の介護と云える。引き継ぎについては、朝、夕の2回、ミニカンファレンスを兼ねてホーム長、ケアマネジャー、管理者いずれかを交えて夜勤・日勤間で実施している。職員も開所以来定着しており、入居者も安心して生活出来ている。市との連携も良く、判断に困るケースなど相談すると前向きに検討して頂けており感謝している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は無かったが、前述の如くホーム長、ケアマネジャー、管理者の3人の体制があり、しかも当初よりアットホームさを目指していたので和気藹々の良いムードが出来上がっていたが役割分担と云う面では不明確なままで過した傾向があることを反省し、アットホームさを残しつつ責任体制の明確化をはかる取り組みを行ってきた。それぞれの重複業務の排除により各々に他に向ける余裕が生まれてきた。次は職員のスキルの維持に取り組んでいきたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価についてもホーム長、ケアマネジャー、管理者の3人で作成し職員に徹底する展開であった。(他の職員の数は少ないが)非常勤の人もいるので職員の意識向上のため、常に評価結果を掲示し、ミーティングで説明し、スキルアップの手段として活用している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は横須賀市方式で行われている。横須賀市は来年度は年6回のうち4回はホーム独自の運営推進会議、残り2回は従来どおり横須賀市方式で行なう方針であり、各グループホームともその準備にかかっている。「ちゃばしら」としては、任期満了に伴い改選された新しい民生委員のご紹介を受け、メンバーとしてご家族のご了解を受けているので地域代表が決まれば開催が可能となる。町内会に加入し親しい会長さんに是非ご協力を頂くよう働きかけて行くことにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>現在入居の6名のうち5名は長く入居している人達であり、ご家族も良くお見えになり、連携もとれていて問題はなく、最近入所された方のご家族も良く見えているので大丈夫と思われる。ただこのケアが良すぎるのでご家族が任せきりにならない様連絡を密にしている。医療に関して、契約している方は大畑医院が24時間ケアを引き受けてくれているので看護師はいないがかなりのターミナルケアに近いケアが可能となっている。医療連携体制についても前向きに検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、近所にも好意的にして頂き、町内会の行事、町内会館で行われる高齢者と若者の集いなどにもお招き頂き、食べたり、歌ったりして良好な関係が出来ている。ご近所の方がグループホームに協力的であり、お声を掛けて頂けて嬉しい。現在、身体に優しいアロマセラピーとアロマセラピートリートメントを導入し好評であるが、他にもボランティアさんと趣味の集いなどが出来ればと考えている。この1年間グループホーム連絡会の役員を務め人脈が広がったことも特筆出来る。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を積極的に行い、地域に根ざしたホームであるように運営方針に提示してある。町内会に加入し、お祭り、町内の高齢者の若者の集いといった行事に積極的に参加をしている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を玄関に提示することで、職員の意識を常に理念の実践に向くようにしている。日常の中で、ホーム長、ケアマネを中心に理念の話をスタッフにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内のお祭りに参加し、夏、年末の神社のお札購入などし、町内会館で行われる高齢者と若者の集いなどにもお招き頂き、食べたり、歌ったりして良好な関係が出来ている。ご近所の方がグループホームに協力的であり、お声を掛けて頂けて嬉しい。現在、身体に優しいアロマセラピーとアロマセラピートリートメントを導入し好評である。		設立当初より、地域交流を積極的に行っている為暖かい支援を下さっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価についてもホーム長、ケアマネジャー、管理者の3人で作成し職員に徹底する展開であった。会議等でホーム長より外部評価の意義等に関しては説明をしている。自己評価項目に関しては、ホーム内に掲示している。また、昨年度の外部評価の結果に関しては、いつでも閲覧できる様にしている。		今後も継続して改善に努力して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横須賀市は来年度は年6回のうち4回はホーム独自の運営推進会議、残り2回は従来どおり横須賀市方式で行なう方針であり、各グループホームともその準備にかかっている。「ちゃばしら」としては、任期満了に伴い改選された新しい民生委員のご紹介を受け、メンバーとしてご家族のご了解は受けているので地域代表が決まれば開催が可能となる。町内会に加入し親しい会長さんに是非ご協力を頂くよう働きかけて行くことにしている。		平成20年度より、横須賀市は各事業所ごとに会議を行う様になった為、これまで以上に有意義な会議を行えることに多大な期待を寄せている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	どんなに些細なことでも、とにかく横須賀市に報告、連絡、相談をする様に心掛けている。		報告、連絡、相談を怠らないことにより、横須賀市も困難な入居のケースであっても、非常に前向きな助言を下さる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の生活状況、健康状態に関しては都度報告している。金銭に関しても、毎月領収書を添付した出納帳を送付している。	○	利用者の生活状況に関しては、毎月一回管理者より書面報告することを現在検討中である。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口を明確にし、これまでも様々な相談に関して真摯に受ける様にしている。		幸いなことに今まで苦情という苦情はない。当然のことながらご家族に対しても報告、連絡、相談を怠らない様常日頃より注意している。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは設立2年になるが、離職率は非常に低い為、利用者も開所以来、馴染みの職員による支援を受けることが出来、非常に安定している。	○	今後も職員の定着を図る為にも、個人面談等を積極的に行い、ストレスを溜めない様に働きかけることが必要である。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長の前職(障害者施設)へ行き実技のスキルアップ等を図っている。また、市内のグループホーム協議会主催の研修にも積極的に参加している。会議に於いても、定期的にホーム長より職員研修を行っている。		会議の場での職員研修は引き続き行う。今後は消防の研修への職員の積極的な参加を検討中。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年度は横須賀市のグループホーム協議会の役員であった為、市内の各グループホームとのネットワークが確立出来た。		居宅介護支援事業所のケアマネとも幾らかネットワークが出来たのはいいのだが、時に当ホームが居宅介護支援事業所の様になってしまうところがある(相談にのる内にケースを任されてしまうことがしばしば)。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初はとにかく環境に慣れることが先決とされる為、些細なことでもご家族と相談をしながら支援を始めるようにしている。入居当初は帰宅願望が強く出る利用者もいる為、そういったケースはご家族の方に来る協力を要請する場合もある。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームは、スタッフ、利用者皆が一つの家族と考えている為、「介護」という枠にとらわれず、大家族での生活といったように利用者の日常生活のお手伝いといった心構えで支援に当たっている。家庭的な雰囲気を大事にしており、それはご家族の方からも好評を得ている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中にも「個」の意思を尊重した支援を心掛けている。その人にあった、その人だけのサービス提供を心掛けている。利用者一人一人のこれまでの人生を尊重し、趣味等はホームでの日中の生活に活かせるよう配慮している(例えば農家であった方は園芸をする等)。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族との面談だけでなく、医療機関等とも密接となり、一人一人の介護計画を作成している。提携医療機関、各主治医等々の情報交換を密接に行い、介護計画作成に役立てている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一定の期間で、介護計画の見直しを行っている。見直し以前に変化が生じた場合には、都度ご家族、医療機関等と相談しながら、その時に即した介護計画を作成している。		見直し時期は大切であるが、利用者はいつ何時、どのような変化があるかは分からないので、介護計画に関しては臨機応変に対応をしている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人一人の「個」を尊重する為、当ホームが少人数であることを活かし、あらゆる面に於いて臨機応変に動ける様日々支援にあたっている。利用者が日々自分のペースで生活出来るように、日々の流れも特に決めていない。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との連携にこだわらず、利用者本人、またはご家族の希望通りの医療機関にて受診できる様に支援をしている。提携医療機関への受診については、当ホーム職員付き添いで定期的受診を行っている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアに関しても、積極的に行う姿勢を示している。ご家族、医療機関と連絡を密接に行っている。また、職員に関しても終末期ケアに関する内部研修を行うことにより、ホームの方針を確認している。現在、終末期ケアを希望されている方が2名いる。その方達に関しては、体調面等少しでも異常が感じられた場合には、すぐに医療機関と連絡をし、指示を仰ぐ様にしている。		今後も継続して最善の対応に努力して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対し畏敬の念を持つこと、同一視線での支援をするということが当ホームの理念である。個人情報の取り扱いに関しては、毎年の職員の契約更新の際に再確認し、書面を交わしている。		職員、利用者が家族の様にと掲げてはいるが、人生の大先輩である利用者に対し畏敬の念を持つということを常に職員全員が念頭に置き支援に当たっている。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに決めているのは昼食、夕食の時間のみ。朝食に関しては、起床時間によって臨機応変に対応している。利用者中心の生活を心掛けている。当ホームの利用者は散歩が非常に好きであるので、冬場等以外は午前、午後と二回散歩に行くようにしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備に関しては困難なものがあるので、食器拭き等の片付けはして頂いている。また、食事が楽しみなものとなるよう、希望を聞くこともある。今年度12月より、献立表は作成せず、ある食材で調理することとなった。その為、利用者の意見も反映しやすいものとなっている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当ホームは基本的に毎日入浴可能としているので、日々希望を聞き入浴を行っている。自分の意思が表すことが困難な利用者に関しても隔日で入浴支援を行っている。		ご家族からは、入浴は体力を消耗するので、毎日入浴しなくても良いという声もある。その利用者の体調面等を考慮して入浴支援は行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人のそれまでの人生を尊重し、個々の個性を活かせる様な日中支援を心掛けている。	○	これから気候が良くなるので、車での外出等を検討中である。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日なるべく午前、午後と二回散歩に行くよう支援をしている。やむを得なく散歩へ行けない時でも、屋上で一緒に洗濯物を干したり、駐車場で外気浴をする等、出来る限り外気に触れる機会を設けるようにしている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はない。玄関の鍵に関しては防犯上かけることもある。利用者の行動制限の為の施錠ではなく、あくまでも防犯上施錠している。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。今後消防にも協力要請をする。	○	夜間に災害が発生した場合の研修を夜勤者を対象に徹底的に行う様検討中である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人によって食物摂取量の調整を「さりげなく」行っている。水分量に関しては、水分摂取表を記入することで利用者の水分補給量を把握している。		食は楽しみであるので、その楽しみを奪うことのないよう、量の調節に関しても、さりげなく行う様配慮している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには四季折々の物を飾っている。気候が良い時は利用者が摘んできた花等を玄関に飾る等の配慮をしている。トイレ、浴室も掃除を徹底的に行い、いつも清潔、綺麗を心掛けている。ひな祭り、お節句、クリスマス等、季節の行事時にはホーム内にささやかな装飾をすることで、利用者が楽しく過ごせる様にしている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気の物以外は原則何でも持ち込み可としている。出来る限り、自宅での生活をそのままに過ごせる様な場の提供を目指している。ご家族の中には自宅の部屋と間取りが似ている居室を選択される方もいて、自宅の部屋そのものの様に家具を配置している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム ちゃばしら
所在地 (県・市町村名)	238-0043 横須賀市坂本町5-5-18
記入者名 (管理者)	草間 光崇
記入日	平成 20年 2月 21日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を積極的に行い、地域に根ざしたホームであるように運営方針に提示してある。	○	町内会に加入し、お祭り、町内の高齢者の若者の集いと いった行事に積極的に参加をしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を玄関に提示することで、職員の意識を常に理念の実践に向くようにしている。	○	日常の中で、ホーム長、ケアマネを中心に理念の話をスタッフにしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族に関しては、地域行事参加の際は書面、口頭にてお知らせをしている。地域の方に関しては、設立時より町内会に加入する等積極的に地域交流を図っている。	○	ホームの広報紙を作成等し、ご家族のみならず、地域の方々にも今以上に当ホームのことを知って頂けるような試みを行う。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日散歩を行うことで、近隣の方々と世間話等をする機会を設けている。近隣の動物病院等からはよくお菓子等の頂き物をする。	○	今後、地域の方々のボランティア等を積極的に受け入れたいと思っている。また、四季折々のホームの行事の際には、地域の方々も招待できたらと思う。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内のお祭り、夏、年末の神社のお札購入、高齢者と若者の集い等には毎年積極的に参加をし、地域との親交を深めている。	○	設立当初より、地域交流を積極的に行っている為、地域の方々も非常に当ホームに対し、暖かい支援を下さっている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームのある地域が高齢者が多いということで、ホーム長は時折介護保険サービスのこと等について、相談を受けている。当ホームでショートステイが出来ないかという問い合わせも数件ある。	○	近隣の方に介護用品の紹介等をしている。ショートステイに関しては近隣の方々も多大な期待をしている様子なので、ホーム開所三年の後にはショートステイサービスを行う予定である。
---	--	---	---	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目に関しては、ホーム内に掲示している。また、昨年度の外部評価の結果に関しては、いつでも閲覧できる様にしている。	○	会議等でホーム長より外部評価の意義等に関しては説明をしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見、指摘等に関しては真摯に受け止めサービス向上へ活かす様にしている。	○	平成20年度より、横須賀市は各事業所ごとに会議を行うようになった為、これまで以上に有意義な会議を行えることに多大な期待を寄せている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	どんなに些細なことでも、とにかく横須賀市に報告、連絡、相談をする様に心掛けている。	○	報告、連絡、相談を怠らないことにより、横須賀市も困難な入居のケースであっても、非常に前向きな助言を下さる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関しては、会議時にホーム長より職員に話をしたことがある。	○	権利擁護、成年後見人制度に関しては、今後積極的に研修への参加等を試みたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しては、いつでも閲覧出来る資料をホーム内に提示してある。また、研修に関しては、ホーム長が参加することが主である。	○	職員の高齢者虐待等の研修への積極的な参加を検討中である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、時間をかけ丁寧に行っている。疑問点等がある場合は常に相談を受ける姿勢を取っている。	○	今まで、契約に関しては丁寧に時間をかけ行っていた為、トラブル等は一切なかった。今後もこの姿勢で取り組んでいく所存である。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム長、管理者、ケアマネを中心に利用者からの相談、苦情を受けている。	○	利用者からの相談、苦情は大体人間関係である。特に新しい利用者が入居するとそういった機会が多くなる為、以前よりの利用者への配慮も重々行うよう心掛けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況、健康状態に関しては都度報告している。金銭に関しても、毎月領収書を添付した出納帳を送付している。	○	利用者の生活状況に関しては、毎月一回管理者より書面報告することを現在検討中である。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口を明確にし、これまでも様々な相談に関して真摯に受ける様になっている。	○	幸いなことに今まで苦情という苦情はない。当然のことながらご家族に対しても報告、連絡、相談を怠らない様常日頃より注意している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長は年2回職員の個別面談をし、意見等を聞いている。面談以外でも相談があれば積極的に受けるようにしている。	○	今後も職員の個別面談は行い、意見を取り入れられる所は積極的に取り入れ、利用者により良いサービスが提供出来るよう取り組む次第である。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新しい利用者が入居した際、また利用者の体調不良時はそのケースに合わせ積極的な人員増員等、勤務調整をしている。	○	勤務調整に関しては非常に柔軟に行えている。ただ、夜勤の増員に関しては、ホーム長のみの調整が多い為、今後検討課題である。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは設立2年になるが、離職率は非常に低い為、利用者も開所以来、馴染みの職員による支援を受けることが出来、非常に安定している。	○	今後も職員の定着を図る為にも、個人面談等を積極的行い、ストレスを溜めない様に働きかけることが必要である。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	ホーム長の研修(障害者施設)・行き先別の研修(ケアマネ)		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム長の前職(障害者施設)へ行き実技のスキルアップ等を図っている。また、市内のグループホーム協議会主催の研修にも積極的に参加している。会議に於いても、定期的にホーム長より職員研修を行っている。</p>	○	<p>会議の場での職員研修は引き続き行う。今後は消防の研修への職員の積極的な参加を検討中。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>平成19年度は横須賀市のグループホーム協議会の役員であった為、市内の各グループホームとのネットワークが確立出来た。</p>	○	<p>居宅介護支援事業所のケアマネとも幾らかネットワークが出来たのはいいのだが、時に当ホームが居宅介護支援事業所の様になってしまうところがある(相談にのる内にケースを任されてしまうことがしばしば)。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ホーム長が夜勤を週2回することで、夜勤スタッフの苦労の理解を示している。また、年2回のスタッフ個別面談の他にも、相談等ある場合は都度聞く場を設けている。</p>	○	<p>スタッフの相談、愚痴等を聞く機会を多く設けていることから当ホームは非常に働きやすい環境であると思う。事実離職率が低い。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>褒めて伸ばすという信念の元、スタッフの育成に当たっている。スタッフ一人一人の良い箇所を見付け、それをより伸ばせる様な職場環境作りを心掛けている。</p>	○	<p>人間得手不得手はある。全てのスタッフがオールマイティーでなくても、適材適所の考えの下、スタッフ皆で助け合いながらサービス提供が行えれば良いと思っている。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>認知症の方からの相談は非常に難しい面もあるが、例えば作話であろうと、決して否定をせずに受容の姿勢で望んでいる。</p>	○	<p>介護職とは受容の姿勢が一番大切であるとスタッフにも常日頃話している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居にあたり、不安なこと求めていること等を解消出来るよう、ホーム長のみならず、管理者、ケアマネもよく話を聞き、安心して入居が出来るよう心掛けている。</p>	○	<p>入居後も相談があれば、早急に機会を設けるよう心掛けている。</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居して終わり、ということではなく、その利用者に応じたサービスが必要か見極め、ご家族にその内容を提示している。場合によっては医療保険サービスの導入も行っている。</p>	○	<p>医療機関に関しては、無理に当ホームの提携医療機関に係る必要はなく、ご家族の希望の医療機関に係ることとしている。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初はとにかく環境に慣れることが先決とされる為、些細なことでもご家族と相談をしながら支援を始めるようにしている。	○	入居当初は帰宅願望が強く出る利用者もいる為、そういったケースはご家族の方に来る協力を要請する場合もある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームは、スタッフ、利用者皆が一つの家族と考えている為、「介護」という枠にとらわれず、大家族での生活といったように利用者の日常生活のお手伝いといった心構えで支援に当たっている。	○	家庭的な雰囲気を大事にしており、それはご家族の方からも好評を得ている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も利用者同様、当ホームの家族同然という考えの下で接する様心掛けている。	○	友達感覚ではないが、極端に謙った態度で接することはないようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族には不安感等を与えないよう、極力利用者の「いい部分」を話す様にしている。そうすることにより、面会の機会も増えていくと思うので。	○	ご家族はよく「ご迷惑をおかけします」という言葉を発するが、その様なことはない、いい所もたくさんあるんだという意思表示をしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は誰でも自由に来れる様にしている(面会簿に利用者本人との続柄等を記載する欄は設けてある)。なるべく自宅にいらした時と同様の生活をして頂ける様心掛けている。	○	ご家族の面会は定期的にあるが、友人、知人の面会は数える程度しかない。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者皆で出来ること(家事等)は協力し合って頂く様な支援を心掛けている。	○	重度の認知症の方が一人いるが、その方に対して他の利用者全員が優しく接して下さっている。おそらくスタッフの方への関わり方をよく見ているのだと思う。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が永眠された場合でも、ご家族は当ホームに脚を運ばなくなることが寂しく感じられるケースが数件あった。気軽に来所できる様な声かけを行っている。	○	今後、広報紙送付、行事への参加の呼びかけ等行っていくと思っている。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中にも「個」の意思を尊重した支援を心掛けている。その人にあった、その人だけのサービス提供を心掛けている。	○	利用者一人一人のこれまでの人生を尊重し、趣味等はホームでの日中の生活に活かせるよう配慮している(例えば農家であった方は園芸をする等)。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネ、ホーム長により入居時にご家族から詳細にお聞きしている。また、必要に応じ入居前に利用していたサービスの職員等に情報提供を依頼する場合もある。	○	これまで、施設に入所していた方は、前施設の職員等にも情報提供を依頼したが、デイサービス利用者に関しては、詳細に情報提供は依頼していない。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	少人数のホームであるので、利用者の状態把握は徹底して行っている。	○	会議の機会では当然のことであるが、利用者の状態等に何か変化があった場合は、ケアマネ、ホーム長を中心に全職員に情報が伝わる様に資料等を作成している。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族との面談だけでなく、医療機関等とも密接となり、一人一人の介護計画を作成している。	○	提携医療機関、各主治医等々の情報交換を密接に行い、介護計画作成に役立てている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一定の期間で、介護計画の見直しを行っている。見直し以前に変化が生じた場合には、都度ご家族、医療機関等と相談しながら、その時に即した介護計画を作成している。	○	見直し時期は大切であるが、利用者はいつ何時、どのような変化があるかは分からないので、介護計画に関しては臨機応変に対応をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の健康状態は当然のことながら、日常生活に於いて何らかの変化等があった場合は個別記録に記入することで、職員全員がその情報を共有できる様にしている。	○	記入に関しては、個別ケース記録だけでなく、スタッフ連絡ノートにも記入することで、情報の漏れがないように徹底している。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人一人の「個」を尊重する為、当ホームが少人数であることを活かし、あらゆる面に於いて臨機応変に動ける様日々支援にあたっている。	○	利用者が日々自分のペースで生活出来るように、日々の流れも特に決めていない。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の学生ボランティアの受け入れを行った。また、消防署の研修等には積極的に参加している。	○	当ホームがある地域の管轄の消防署は非常に研修等に対し積極的である為、当ホームも都度研修に参加し、お互いの情報交換をしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他グループホームとの情報交換は積極的に行っている。訪問看護が必要な方は、ご家族とも相談をした上でサービス導入を行っている。今後その他のサービスが必要とされた場合は積極的に導入する次第である。	○	現在訪問看護以外のサービスは導入していないが、今後必要とされた場合は、他のサービス利用も積極的に導入する次第である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に於いて、地域包括支援センターとは情報交換を行っている。	○	権利擁護に関しては、今後職員に対し研修の機会を設けることを検討中である。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との連携にこだわらず、利用者本人、またはご家族の希望通りの医療機関にて受診できる様に支援をしている。	○	提携医療機関への受診については、当ホーム職員付き添いで定期的受診を行っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	全利用者が、認知症専門医にかかっており、月に一回の往診を受けている。また、必要に応じ医師へ相談をしている。	○	入居時、当ホームの認知症専門医にかかっていない方に関しては、入居後受診をするようにし、医師よりその時の状態にあった薬を処方して頂くようにしている。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護サービスを利用している方がいる。	○	看護職員、看護ボランティアの導入に関しては、現在検討中である。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された場合、面会の機会を多くすることで、医療機関との情報交換の場を持ち、退院後の支援に活かせるようにしている。	○	入院した場合、医療相談室や、ナースステーションと情報交換をすることで、退院後の支援に役立てている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアに関しても、積極的に行う姿勢を示している。ご家族、医療機関と連絡を密接に行っている。また、職員に関しても終末期ケアに関する内部研修を行うことによって、ホームの方針を確認している。	○	現在、終末期ケアを希望されている方が2名いる。その方達に関しては、体調面等少しでも異常が感じられた場合には、すぐに医療機関と連絡をし、指示を仰ぐ様にしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームが利用者の為に「できること」は出来る限りの支援を行う方針である。介護と医療の境を明確にするよう、医療機関と話し合いをしている。	○	医療機関との連絡を密接に行うことで、その時の利用者の状態に応じた支援を行っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現段階で、別施設・住居への移動はなし。今後そういったケースが生じた場合には、住み替えによるダメージの軽減に努める次第である。	○	住み替え時には、利用者の精神的ダメージの軽減の為に出来る限りのことはする次第である。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
○プライバシーの確保の徹底	利用者に対し、思惑の念を捨てること、同一視線での支援を止			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対し畏敬の念を持つこと、同一視線での支援をすることが当ホームの理念である。個人情報の取り扱いに関しては、毎年の職員の契約更新の際に再確認し、書面を交わしている。	○	職員、利用者が家族の様にと掲げてはいるが、人生の大先輩である利用者に対し畏敬の念を持つことを常に職員全員が念頭に置き支援に当たっている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が、気兼ねすることなく日中生活を送れるように常に配慮している。また、利用者自身で出来る所はなるべく自身でするような働きかけをしている。	○	ご高齢者の中には、元々遠慮深い方、そうでない方がいらっしゃるのですが、どうしても要望が強い方と、そうでない方のバランスをとることが困難なケースもある。遠慮深い方に関しては、声かけを多くする等、職員が配慮をするようにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに決めているのは昼食、夕食の時間のみ。朝食に関しては、起床時間によって臨機応変に対応している。利用者中心の生活を心掛けている。	○	当ホームの利用者は散歩が非常に好きであるので、冬場等以外は午前、午後と二回散歩に行くようにしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装に関しては、一人一人好みが違うので、その人らしいコーディネートを中心掛けている。理、美容に関しては、ご本人、ご家族の希望により、現在は当ホームで行っている。	○	利用者の中にはお気に入りの洋服ばかり着てしまう方がいる。そういう方に関しては、上手に声かけをすることで、衣服を変えて頂くよう配慮している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備に関しては困難なものがあるので、食器拭き等の片付けはして頂いている。また、食事が楽しみなものとなるよう、希望を聞くこともある。	○	今年度12月より、献立表は作成せず、ある食材で調理することとなった。その為、利用者の意見も反映しやすいものとなっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前、煙草を吸われる利用者がいた。ホーム内での喫煙行為は消防上少々問題であるが、利用者の楽しみの一つとして、自室は喫煙可とした。	○	「危険であるから」という理由で無碍に喫煙の行為を静止するのではなく、どのようにすれば安全に喫煙行為が出来るかということが重要である。当ホームでは煙探知機を設置する、喫煙時は職員が近くに待機する等の対応を行った。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	たとえリハビリパンツ使用の利用者であっても、トイレ誘導は欠かせない。排泄に関する職員の意識は非常に高い。	○	介護5でオムツ使用の方に関しても、職員が時間でトイレ誘導をし、出来る限り便座に座り排泄をするような支援を行っている。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当ホームは基本的に毎日入浴可能としているので、日々希望を聞き入浴を行っている。自分の意思が表すことが困難な利用者に関しても隔日で入浴支援を行っている。	○	ご家族からは、入浴は体力を消耗するので、毎日入浴しなくても良いという声もある。その利用者の体調面等を考慮して入浴支援は行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中ソファにてウトウトしている利用者がある場合は、何気なく毛布をかけたたり、余程眠そうな時は自室に誘導する等の支援を行っている。	○	あまり日中熟睡してしまうと、夜間眠れなくなってしまうので、時折お茶にお誘いする等の配慮を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人のそれまでの人生を尊重し、個々の個性を活かせる様な日中支援を心掛けている。	○	これから気候が良くなるので、車での外出等を検討中である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に関しては、ご家族、ご本人の希望を聞き、ご本人にお持ち頂くようにしている。	○	ご家族より、金銭管理は当ホームでして欲しいという要望の方が現時点では多い。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日なるべく午前、午後と二回散歩に行くよう支援をしている、	○	やむを得なく散歩へ行けない時でも、屋上で一緒に洗濯物を干したり、駐車場で外気浴をする等、出来る限り外気に触れる機会を設けるようにしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の数が少ない時は、ドライブ、買い物等こまめに行っていたが、利用者の体力低下、また利用者数の増加等で機会が減っているのが現状である。	○	定期的な外出が出来る様、現在個別外出プログラムを検討中である。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話に関してはいつでも使用可能、手紙もご本人のプライバシーを尊重し、ご本人から要望があればお手伝いをするよう配慮している。	○	手紙を書いている時は、居室へ入らない等職員全員がプライバシーに対する配慮をしている。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に関しては自由である。面会者は面会簿に記入することになっている。	○	なかなか友人が来所する機会は少ないようである。今後ホームの広報紙を作成する等し、様子をお知らせ出来たらと思っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、ホーム内に閲覧資料を提示する等し、職員の意識を高めるようにしている。	○	少人数であるため、介護の目が行き届くことを活かし、身体拘束は行わない方針で日中の支援にあたっている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はない。玄関の鍵に関しては防犯上かけることもある。	○	利用者の行動制限の為の施錠ではなく、あくまでも防犯上施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室で休まっている時であっても、時間で巡視を行う等、利用者の状態把握に努めている。夜間に関しても、こまめに巡視をし、状態把握、安全確認に努めている。	○	夜間に関しては、体調不良時は従来よりこまめに巡視を行う。また、必要に応じてバイタルチェックをする時もある。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者持参の物の中には危険を伴うものがあるが、その物に対し強い思い入れがある場合もあるので、無下に撤去するのではなく、例えばその物を使用する時は職員と共に使用する等の配慮をしている。	○	危険であるかといって無下に撤去するのでは、情緒的に落ち着かず、他の危険性を伴う場合もあるので、十分に注意をしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤薬、行方不明、火災等に関しては、職員同士声をかけあい、発生しない様十分に注意をしている。食事時の窒息に関しては、摂食研修、またリビングに吸引ノズルを用意する等している。	○	万が一事故が発生した場合には事故報告書を提出し、職員全員で安全面の再確認をするようにしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時の連絡手段に関しては、徹底的に職員に確認をしている。心肺蘇生、AEDに関しては全職員が対応できる。	○	急変時の対応に関しては、事務所内に提示するだけでなく、各個人ファイルにも記載、提示してある。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。今後消防にも協力要請をする次第である。	○	夜間に災害が発生した場合の研修を夜勤者を対象に徹底的に行う様検討中である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクに関しては、ご家族には説明する様にしている。また、そのリスク発生時の対処法についても説明をしている。	○	リスクの高い利用者に関しては、出来る限りリスクを軽減させる為にご家族に相談、協力を頂く場合もある。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人一人の体調管理には常に気を配り、体調変化時には報告、連絡、相談をする様徹底している。	○	職員独自の判断で、動くのではなく、管理者、ホーム長にまず連絡をする様徹底している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個人ケースファイルに、薬局から出る「お薬カード」を閉じこんであり、利用者がどの様な薬を服用しているのか、一目瞭然に分かる様にしてある。	○	新薬は処方された場合は、利用者の状態の変化にいつも以上に気を配る様にしている。新薬処方、薬変更の連絡はケースファイルだけでなく、スタッフ連絡ノート、また口頭でも伝達し漏れのないようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消の為、食物繊維の物を多く摂取する等の配慮を行っている。利用者の排便状態を排泄チェック表をつけることで、把握する様にしている。	○	なるべく浣腸等行わず、可能な限り自然排便を目指して支援を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自身で、口腔ケアが出来る利用者に関しては、見守り、声かけを行う。自身で行うことが出来ない利用者に関しては、全介助して口腔ケアを行っている。	○	利用者の口腔内の状況に応じ、訪問歯科を依頼する場合もある。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人によって食物摂取量の調整を「さりげなく」行っている。水分量に関しては、水分摂取表を記入することで利用者の水分補給量を把握している。	○	食は楽しみであるので、その楽しみを奪うことのないよう、量の調節に関しても、さりげなく行う様配慮している。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外から戻った際はうがい、手洗いの励行。ホーム内のタオルは使い回しをしない等徹底している。行政からの感染症に関する連絡等に関しては、ホーム内に提示してある。	○	利用者に関しては、個々にタオルを持つようにしている。キッチンに関してもいつも「清潔」を心掛けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に消毒、殺菌を行っている。食材に関しては基本1週間に1回買出しを行い、足りない分は都度補充する様になっている。	○	衛生管理に関しては管理者を中心に徹底されている。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームが住宅改修であるので、元々「施設」の様な感じがしない。看板も表札の様な物とし、出来る限り施設色を無くしている。玄関先には丸太のベンチを置くことで、地域のご高齢者の休憩場所となっている。	○	丸太のベンチはよく地域のご高齢者が休憩し、そこで当ホームの利用者とお話をしたり交流を図っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには四季折々の物を飾っている。気候が良い時は利用者が摘んできた花等を玄関に飾る等の配慮をしている。トイレ、浴室も掃除を徹底的に行い、いつも清潔、綺麗を心掛けている。	○	ひな祭り、お節句、クリスマス等、季節の行事時にはホーム内にささやかな装飾をすることで、利用者が楽しく過ごせる様にしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間がリビングしないので、なかなか独りになるスペースを設けることが難しい。気の合った利用者同士での時間の共有に関しては十分に配慮をしている。	○	独りになりたい時は、自室誘導をする等の支援を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気の物以外は原則何でも持ち込み可としている。出来る限り、自宅での生活をそのままに過ごせる様な場の提供を目指している。	○	ご家族の中には自宅の部屋と間取りが似ている居室を選択される方もいて、自宅の部屋そのものの様に家具を配置している。
	○換気・空調の配慮			

協力：泊所調整(玄関) 手洗い場(トイレ) 手洗い場(浴室)

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気、温度調整に関してはこまめに行っている。また施設特有の臭いがしない様、アロマオイルを使用して日々掃除を行っている。冬季は加湿器を使用し、乾燥にも重々気をつけている。</p>	○	<p>アロマセラピーは認知症の緩和にも非常に良いとされている為、日常生活の中の色々な場面で使用している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全面に配慮すると共に、出来る限り自立した生活が送れる様にホーム内を設備している。</p>	○	<p>完全にバリアフリーではないことを逆に活かし、段差がある所は自身でも気をつけて歩く等、脳への刺激という意味でも非常にいいのではと思っている。ただ、安全面には重々注意している。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人一人のわかる力を尊重し、出来るところ、わかるところは自身で行い、困難なところはさりげないサポートをするよう心掛けている。</p>	○	<p>認知症の方は作話もあるが、決して否定はせずに、肯定の姿勢で支援にあたっている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ホーム玄関外にはプランターを置いて、利用者がお世話をしている。また、丸太のベンチに座って、お茶をする等、小さいホームなりの工夫をしている。</p>	○	<p>気候が良い時はベランダにマットを敷いて、歌を歌ったり、お茶をしたり、昼寝をしたりしていきたい。(開所当時は人数が少なかった為、時折行っていた。)</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

元々住宅改修のホームの為、「施設」色は殆どなく、建物からアットホームな雰囲気を出している。利用者みなさんに本当の自分の「家」と思ってもらえる様、ホーム全体の雰囲気を大切にしている。また、当ホームは少人数であることから、目の行き届いた介護、支援を行っている。ホーム長自身が重度の身体、知的障害者の施設での職歴が長い為、ある程度の医療的ケアに関しては対応できることから、ホームにおける医療的ケア導入に関しても、非常に積極的である。あとはホームが開所して2年経った現在でも施設特有の臭いはせず、日々の掃除が行き届いていることからホーム内は非常に清潔な感じである。認知症の緩和に非常に良いとされているアロマセラピーも日常生活の中に積極的に導入している。ホームの雰囲気が良いと常々、ご家族、見学者の方から言われている。今後は少人数ということを活かし個別外出プログラム等の徹底を図りたいと思っている。